

令和 6 年度（2024 年度） 第 2 回小原地域会議 会議録

開催日時	令和 6 年 6 月 4 日（火）	開会	閉会
		午後 6 時 30 分	午後 8 時 30 分
会 場	小原支所 第 1 会議室		
出席者	委 員	竹内正美（会長）、白川悠理（副会長）、成瀬友昭、景山卓己、安藤茂則、大林鐘次、岡田口治、小出透、板倉正典、増岡正博、加藤元紀、山内明、成瀬啓一、田澤由佳、鈴木孝典、濱辺誠一、無州麻美	
欠席者	なし		
次 第	1 開 会 ・開会前に市長とともに写真撮影 2 あいさつ 3 豊田市への提言について … 資料 1 4 意見交換 5 報告事項 … 資料 2 ・令和 5 年度の地域づくり活動報告（地域課題解決事業） 6 協議事項 … 資料 3 ・今後の地域会議の進め方について 7 その他（連絡事項・配布物等） ・次回地域会議開催日程のご案内 8 閉会		

◆議事録

3 豊田市への提言について

地域会議から豊田市へ提言書の提出

※提言書の内容は資料 1 参照

○提言にある里の駅は“集う”がテーマとなっている。小原という地域は、何かをつくったり発信したりできる人がやってくる。その多様性をショーケースとしてみてもらえる場所にしたい。また、コーディネーター機能を持つ場所でもありたいと考えている。今後、具体案を地域会議で議論する。

○提言の要旨は定住促進であり、里の駅は小原に人を呼び込む情報発信の役割を担うものである。場所や人材確保など多くの課題があるが、具体化を進めてほしい。今暮らしている人たちがやりたいことをやっていくことがこの先の定住促進につながると思う。

4 意見交換

○コミュニティナースという考え方をもとに、相互扶助を促す高齢者マッチングのようなことができたらと思っている。

市長：市内でも旭地区の「しきしまの家」が前例として取り組んでいる。学校が終わると子どもたちがしきしまの家にやってきて、親が迎えに来るまで、地域のお年寄りが子どもたちの面倒を見るという仕組み。これを地域を超えて小原全体でできればと思う。

○市場城跡はテレビ放送の効果もあり、毎日のように人が見に来る。地域の魅力をどのようにアピールしていくべきか。地域の活性化にどのように生かしていくかが課題。

市長：地域にある関連資源をまとめ、うまく情報発信できないか。

○里山の景観が無くなっていくのを寂しく思う。耕作放棄地などを借り受けて耕作ができる仕組みが必要ではないか。

市長：里山の景観は崩れ始めたら一気に崩れてしまう。こういう場（地域会議）でもっと話をしていけば共通認識も広がっていくと思う。

○バスの終着を上仁木から雑敷まで延線できたら、四季桜まつりの川見会場にとってもよいと思う。

市長：博物館に縁日空間というスペースがある。なんにでも使っている空間。「これが小原だ！」を展開するのもありだと思う。博物館が入り口になって小原へ来るというのもあるかもしれない。ずっと笑っている高齢者が（ブースに）いて小原の魅力を語る、そうすると、そこで話をきいたことをきっかけにその人は小原にいきたくなるかもしれない。

歴史文化はその地域で愛着のある人がやっていくとおもう。ただ、その歴史や遺産をその地域だけでかかえずにそれを小原全体で共有していったらどうか。

5 報告事項

事務局より案内（資料2参照）

6 協議事項

今後の地域会議の進め方について（資料3参照）

7 その他

7.1 連絡事項

なし

7.2 配布物

なし

7.3 次回日程

第3回定例会 7月2日（火）午後18時30分～20時30分

支所2階第1会議室